

平成24年度

第2/3回

(地域別研修)

アフリカ地域

女性指導者のための健康と栄養改善

実施要領

平成24年11月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

## 目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	4
10. 主な宿泊場所	5
11. その他	5

### 付属資料

- 付表－1 研修員関連情報
- 付表－2 カリキュラム
- 付表－3 研修日程表
- 付表－4 年度別受入実績表

## 1. 案件基本情報

(1) コース名

和文：(地域別研修) アフリカ地域 女性指導者のための健康と栄養改善

英文：Region Focused Training Program on “Health Promotion and Nutrition Improvement for Women Leaders in Africa”

(2) 受入期間

平成 24 年 11 月 12 日 (月) ～平成 25 年 1 月 29 日 (火)

(3) 技術研修期間

平成 24 年 11 月 15 日 (木) ～平成 25 年 1 月 28 日 (月)

(4) 定員、割当国

受入人数：9 名

割当国：ベナン、エチオピア (2)、ガーナ、ケニア (2)、ザンビア (2)、ジンバブエ  
(下線は受入国)

(5) 類型

人材育成普及型

(6) 使用言語 英語

## 2. 案件の背景・目的

アフリカでは乳幼児や妊産婦に対する保健への取組みが遅れており、ミレニアム開発目標 (MDGs) の達成が懸念されている。保健医療が最も必要とされている脆弱な女性と子どもにサービスが届かないことが課題となっている。また、栄養改善はすべての MDGs に関連する重要な課題であるが、地域での栄養・保健行政を包括的に計画、実施、評価できる人材は十分育成されていない。人間の安全保障の観点からも、母子に直接裨益するヘルスプロモーション活動を推進し、女性のエンパワメントに貢献する女性指導者への育成が急務となっている。

本案件では、アフリカの女性指導者を対象に、コミュニティでの食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動を実施するために必要な様々な知識、技術、能力を習得することを目的とする。

### 3. 案件目標

対象とするコミュニティでの食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動を実施するための適切な活動計画案が作成される。

### 4. 単元目標

- (1) 食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動の意義を理解し、幅広い視野で健康と栄養の関係について説明できる。
- (2) 日本での健康増進、栄養改善の取り組みを学ぶ。
- (3) コミュニティの生活環境に即した健康増進・栄養改善を目的とした活動計画案を策定するための手法を学ぶ。

### 5. 研修成果品

- (1) 本邦研修実施前

「初期報告書 (Inception Report)」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題や、それに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

- (2) 本邦研修終了時

「最終報告書 (案) (Draft Final Report)」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に単元目標 (3) にかかる活動計画 (案) を作成し、コース終盤に発表する。

- (3) 帰国後の事後活動

「最終報告書 (Final Report)」の作成

研修員は帰国後、最終報告書 (案) に書かれた行動計画 (案) を所属組織に報告、関係者と共有のうえ、最終的な行動計画 (案) をまとめ、帰国後3ヶ月以内に JICA に提出する。JICA は同報告書を関係者と共有のうえ、次年度以降に実施される研修に内容をフィードバックし、必要に応じフォローアップを検討する。

## 6. 研修員参加資格要件

### (1) 募集要項記載条件

- ア. 栄養指導、保健指導の政策・立案に従事している中堅職員
- イ. 当該分野で3年以上の経験があること
- ウ. 45歳くらいまでの女性で、実習や視察に耐えうる体力があること。

### (2) 各案件共通資格要件

- エ. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること
- オ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること
- カ. TOEFL IBT 72点（CBT 200点／PBT 533点）以上に相当する英語能力を有すること
- キ. 心身ともに健康なこと
- ク. 軍に属していないこと

## 7. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構北海道国際センター（帯広）が、関係諸機関の協力により、計画・実施・運営する。技術研修期間中、JICA登録の研修監理員を配置する。具体的業務分担は次のとおり。

### (1) JICA

- ア. 実施計画書作成（案件目的、案件目標、研修期間等）
- イ. 実施予算の執行管理
- ウ. 募集要項および実施要領等の作成
- エ. 日程表の調整・作成
- オ. 講師、視察先等への連絡・確認
- カ. テキスト、資料等の手配
- キ. 評価

### (3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等

#### (4) 研修監理員

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳・翻訳等

## 8. 研修の評価

### (1) 評価の目的

案件目標に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

### (2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICA による評価

### (3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

### (4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づきコースリーダー、講師、JICA 等が参加し、反省会を開催する。研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度以降の改善に向けて対応方針を検討する。

## 9. 研修付帯プログラム

### (1) ブリーフィング

来日直後に、東京国際センター（以下 TIC: Tokyo International Center）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

研修員の日本に対する理解を深めるために日本の文化・制度などの一般的な事情を紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として 6 時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程

日 程	内 容
11 月 13 日 (火)	ジェネラルオリエンテーション
11 月 14 日 (水)	集合ブリーフィング
11 月 27 日 (木)	日本語講習 (夜間)
11 月 28 日 (金)	日本語講習 (夜間)

## 10. 主な宿泊場所

東京国際センター (TIC)

所在地：〒151-0066 東京都渋谷区西原 2-49-5

Tel (03) 3485-7051 Fax (03) 3485-7904

北海道国際センター (帯広)

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西 20 条南 6 丁目 1 番地 2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

## 11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本案件に地域の小中学校の生徒や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上



独立行政法人国際協力機構 北海道国際センター(帯広)  
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2  
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250  
ホームページ : [www.jica.go.jp/obihiro/](http://www.jica.go.jp/obihiro/)  
メール : [jicaobic@jica.go.jp](mailto:jicaobic@jica.go.jp)

平成24年度(地域別研修)「アフリカ地域 女性指導者のための健康と栄養改善」コース研修カリキュラム

研修目標: 対象とするコミュニティでの食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動を実施するための適切な活動計画案が作成される。

単位: 日

科目	講義	演習	視察	討論	担当講師	講義内容
<b>単元目標1: 食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動の意義を理解し、幅広い視野で健康と栄養の関係について説明できる。</b>						
ヘルスプロモーション概論	0.5				萩原コースリーダー	個人の健康改善と地域全体の健康改善を考えるには個人のみならず地域社会全体での健康改善のための環境づくりが不可欠である。このような視点からヘルスプロモーションの概念が生まれ、1990年代にはProcede-Proceed Modelなどが紹介され先進国、途上国双方で注目されている。この概念は途上国の地域栄養改善などに特に有効であり、この手法をつかって地域診断と改善のための政策立案が可能である。本講義では各国の事情を踏まえながらヘルスプロモーションの概念と適用について解説するとともにコミュニティにおける「行動変容 (Behavioral Change Communications)」についても触れる。
女性のリプロダクティブヘルスとエンパワメント	1.0				JOICFP 鈴木事務局長、浅村氏	リプロダクティブ・ヘルスについて討論し、諸事例をあげながら効果的な女性のエンパワメントのための方法について学ぶ。またJOICFPが途上国で採用している紙芝居やBCC、マギーエブロン、マグネルキットやCHW (Community Health Worker)が使っている効果的なツールの利用法も紹介する。
女性と子どものHIV/AIDS: 母子感染と栄養	0.5				筑波大学 若杉教授	アフリカにおけるエイズの現状や母子感染について理解し、栄養に関連した分野からエイズの予防と対策について学習する。また、現場で患者に関わる女性指導者の役割と重要性について学ぶ。
HIV感染者の栄養支援	0.5				静岡英和学院大学短期大学 木下講師	栄養士の立場からHIV陽性者に対する栄養指導の留意点および実践の方法について日本での事例を通じて解説する。実際に用いられている食事、食品などを紹介する予定としている。
保健医療協力における栄養対策	0.5				JICA カル国際協力専門員	これまでのJICAの栄養分野での協力の事例を紹介し、保健医療協力における栄養対策の在り方について考察する。
JICAの対アフリカ保健医療協力	0.5				JICA人間開発部	TICADIV (第4回アフリカ開発会議)で日本政府が表明した保健医療分野コミットメント(感染症対策、母子保健、保健システム強化)に基づくJICAの協力指針について解説する。
日本の開発、食から健康を考える生活園芸と食～恵泉女学園の取組み	1.0	1.0			恵泉女学園大学 谷本教授、澤登教授	日本のこれまでの開発を通じて(大学周辺の地域開発の視察も含め)、女性の健康と食事について考える。大学で実習している有機肥料を利用した家庭菜園、ソーラークッカーの紹介、また学生との食育実習を体験する。
地域栄養と参加型栄養教育	1.0				食生態学実践フォーラム 足立理事長	開発途上国における地域栄養の実際と効果的な栄養改善のための方法を食生態学に基づいて解説する。またわが国の栄養改善の経験や問題点についても昼食作りの実習を通じて学ぶ。
学生との交流「アフリカと日本の食文化」について	0.5			0.5	帯広大谷短期大学 池添名誉教授	調理を通じて研修員の有する知識や食品利用についての知見と日本の学生による食文化の交流を通じて栄養についての理解を深める。
女性、栄養と保健システム	0.5				萩原コースリーダー	アフリカにおける保健システム強化、母子保健・リプロダクティブ・ヘルス・栄養への取り組みについて概観する。その上で同分野の重要性と支援についての国際的動向とJICAの基本的な姿勢・方針を解説する。
コミュニティエンパワメントと参加型啓発活動	0.5				萩原コースリーダー	開発途上国における地域住民参加型の健康改善とコミュニティエンパワメントの手法を講義とワークショップで学ぶ。
日本の栄養政策とその変遷/開発途上国における食事調査	1.0				青森県立保健大学 吉池教授 国立健康・栄養研究所 三好研究員	日本の栄養政策の現状と変遷および、政策策定の基礎となる国民栄養調査について解説する。また後半は開発途上国における栄養調査のうち、主として食事調査の実践と手法について学習する。
十勝の農村の食生活改善運動の歴史と流れ	0.5				元生活改善普及員 川原氏	昭和35～45年ころの食生活を取り巻く農家の環境、農家所得、農家住宅、衛生状況、衣生活、農民の健康問題を通じて食生活改善運動の重要性を事例を通じて学ぶ。
小計	8.5	1.0	0.0	0.5		
<b>単元目標2: 日本での健康増進、栄養改善の取り組みを学ぶ。</b>						
保健所の組織・役割と公衆衛生業務	0.5		0.5		北海道帯広保健所	我が国の保健所の概要、栄養・衛生行政、栄養士業務について栄養相談、試験検査室の視察。
食文化論	0.5				帯広大谷短期大学 池添名誉教授	歴史的パースペクティブにおいて日本の食文化を紹介。明治維新から第二次世界大戦後、現在に至るまでの「米」の果たした役割、米について創意工夫の産物を列挙し米文化の姿容・影響を説く。
栄養と代謝	0.5				帯広大谷短期大学 池添名誉教授	微量栄養素欠乏(ヨウ素欠乏症)と代謝について理解する。
栄養士の役割、栄養指導概論	1.0				帯広大谷短期大学 山崎教授	栄養士の役割、栄養指導の成立と変遷、21世紀の健康づくりと栄養指導、日本の食生活の現状と問題点、食事計画、食生活・栄養教育の方法と技術、栄養指導の評価、特定給食施設別栄養指導
帯広市学校給食共同調理場視察			0.5		帯広市学校給食共同調理場	小・中学校における児童生徒の栄養と給食について視察しながら学校保健の有効性を紹介する。
食品加工 I、II	0.5	1.0			帯広大谷短期大学 池添名誉教授	地場産品を使った最新の加工技術と帰国後応用可能な加工技術の習得(大豆以外のトウモロコシなどの加工、マンゴーなどのドライフルーツ加工)
食品の保蔵と加工	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 池添名誉教授	食品の加工理論、加工法と加工技術、及び各種保蔵法大豆を使った加工品の紹介
自分の身体状況に合った献立の作成及び栄養価計算・評価	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 山崎教授	自己の適正体重・基礎代謝量・必要な栄養量を調べ、食料構成・レシピを作成、栄養計算、評価を行う。
公衆栄養学	1.0				帯広大谷短期大学 植田教授	生活習慣病の国際比較/我が国の死亡統計に見る生活習慣病の実態/日本とアメリカの食生活指針/国民栄養調査(BMIを含め)などについて演習を交えながら理解する。
栄養素欠乏症及び改善料理試作	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 山崎教授	ビタミン欠乏症・ヨード欠乏症・鉄欠乏症について、ビタミンA、亜鉛、鉄、カルシウムを多く摂取可能な料理の作成。ヨードが摂取できる料理の試作。研修員の国にもある材料を使い、栄養改善のための献立作成・調理・説明・評価・討論を行う。
食品の衛生・安全管理	1.0				帯広大谷短期大学 山崎教授	衛生・安全管理の意義、食中毒・感染症について、ネズミ及び昆虫などの対策、事故防止、衛生管理体制、事故発生時の対応、衛生教育、安全管理
保健衛生と生活環境	1.0				帯広大谷短期大学 池添名誉教授	健康な体をつくり維持していくためには、体の内部環境と外部環境の様々な要素とのかかわりについて学ぶ必要がある。内部環境は保健衛生の視点から疾病、免疫および心身の整理機構について講義する。外部環境は生活行動に視点を置き、家族、社会および生活環境との関わりと共に、健康を保つために必要な事象について学ぶ。
糖尿病に関する演習・実習		1.0			帯広大谷短期大学 山崎教授	糖尿病について、糖尿病交換表の使い方解説等。糖尿病のモデル食展示。糖尿病食の試作。
病院栄養士の業務について/最新医療機器の説明	0.5		0.5		北斗病院 油谷栄養科長	病院の栄養士の役割、栄養療法の実際を院内見学を行いながら学ぶ。我が国の地域医療におけるレファラルシステムを理解する。
けんこう帯広21の取組み	3.0	2.5		0.5	帯広市保健福祉センター	我が国の21世紀の保健政策の中心となる健康日本21の政策と現場での取り組みを紹介する。帯広市の保健事業・母子保健事業・成人保健事業および各事業のモニタリングと評価
病院での産婦人科と栄養科の役割			0.5		帯広厚生病院	病院で産婦人科及び栄養科を視察することにより、院内における母子への取り組みを理解する。
生活習慣病の予防	0.5				北斗病院 潮田医師	生活習慣病について医学的見地から学ぶ。
小計	11.5	6.0	2.0	0.5		
<b>単元目標3: コミュニティの生活環境に即した健康増進・栄養改善を目的とした活動計画案を策定するための手法を学ぶ。</b>						
PCMIによる案件形成とリーダーシップ、マネジメント	1.0	2.0			北海道医療大学 半田教授 萩原コースリーダー	アクションプランの策定手法として、問題分析、関係者分析の演習を行い、問題系図から目的系図の作成を目指す。アフリカ、アジアでの事例をもとにどのようなアプローチが可能か模索する。
PCM手法、PPMモデルを活用したプロジェクト形成、運営管理	0.5				萩原コースリーダー	PCM手法、PPMモデルについて学び、効果的なプロジェクト形成、運営管理の手法を習得する。
研修員による自国での母子保健、地域保健の優良事例の紹介	0.5				萩原コースリーダー	昨年度実施したフォローアップ調査団より、ベナン研修員による帰国後のアクションプラン実施例を紹介し、実施にいたるまでの課題とその克服法について考察する。更に、自国での母子保健、地域栄養改善における優良事例を研修員より発表し、アクションプランを実現させるための方策を学ぶ。
ドラフトファイナルレポート検討会 I、II				3.0	萩原コースリーダー	ヘルスプロモーションの理論などに依拠しながら各研修員が本研修を通じて得た知見をもとに帰国後の行動計画を具体的に作成してもらう。
小計	2.0	2.0	0.0	3.0		
合計	22.0	9.0	2.0	4.0		

## 研修詳細計画書

研修コース名 平成24年度（地域別）「アフリカ地域 女性指導者のための健康と栄養改善」

研修コース番号 J1204037

研修期間 2012/11/12 ~ 2013/1/29

日付	時刻	形態	研修内容	研修場所
11/12(月)			来日	
11/13(火)	9:30 ~ 11:30	講義	ジェネラルオリエンテーション プログラム説明／「日本社会と文化」	TIC／オリエンテーションルーム
	13:00 ~ 14:30	講義	ジェネラルオリエンテーション「経済」	
	14:45 ~ 16:15	講義	ジェネラルオリエンテーション 「政治・行政」	
11/14(水)	9:30 ~ 12:00		ブリーフィング	TIC
	~			
11/15(木)	9:30 ~ 12:00		JICAブリーフィング/コースオリエンテーション	TIC
	13:30 ~ 16:00		ヘルスプロモーション概論	
11/16(金)	9:30 ~ 16:00		女性のリプロダクティブヘルスとエンパワメント	ジョイセフ
	~			
11/17(土)	10:00 ~ 12:00		女性と子どものHIV/AIDS：母子感染と栄養	TIC
11/18(日)				
11/19(月)	9:00 ~ 11:00		HIV感染者の栄養支援	TIC
	~			
11/20(火)	9:30 ~ 12:00		保健医療協力における栄養対策	
	13:30 ~ 16:00		JICAの対アフリカ保健医療協力	
11/21(水)	10:00 ~ 17:00		日本の開発、食から健康を考える	恵泉
	~			
11/22(木)	10:00 ~ 17:00		生活園芸と食～恵泉女学園の取組	恵泉
11/23(金)				
11/24(土)				
11/25(日)				
11/26(月)	9:30 ~ 16:00		地域栄養と参加型栄養教育	TIC
11/27(火)			移動（東京→帯広）	
	14:30 ~ 17:00		帯広ブリーフィング	ブリーフィングルーム

日付	時刻	形態	研修内容	研修場所
11/28(水)	9:30 ~ 12:00		日本語講習	セミナールーム1
	13:00 ~ 18:00			
11/29(木)	10:00 ~ 16:00		保健所の組織・役割と公衆衛生業務	帯広保健所
	~			
11/30(金)	13:30 ~ 16:00		病院での産婦人科と栄養科の役割	帯広厚生病院
12/1(土)				
12/2(日)				
12/3(月)	9:30 ~ 12:00		PCMIによる案件形成とリーダーシップ、マネジメント	JICA帯広 S4
	13:30 ~ 16:00			
12/4(火)	9:30 ~ 12:00		PCMIによる案件形成とリーダーシップ、マネジメント	JICA帯広 S4
	13:30 ~ 16:00			
12/5(水)	9:30 ~ 12:00		PCMIによる案件形成とリーダーシップ、マネジメント	JICA帯広 S4
	13:30 ~ 16:00			

日付	時刻	形態	研修内容	研修場所
12/6(木)	9:30 ~ 12:00		市長表敬/東京プログラム振返り	JICA帯広 S4
	13:30 ~ 16:00		インセプションレポート発表会	
12/7(金)	~		学校訪問	
	~			
12/8(土)				
12/9(日)				
12/10(月)	9:30 ~ 12:00		食文化論	帯広大谷短期大学
	13:00 ~ 16:00		栄養と代謝	
12/11(火)	9:30 ~ 12:00		栄養士の役割、栄養指導概論	帯広大谷短期大学
	13:00 ~ 16:00			
12/12(水)	9:30 ~ 12:00		帯広市学校給食共同調理場視察	帯広市学校給食共同調理場 帯広大谷短期大学
	13:00 ~ 16:00		食品加工 I	
12/13(木)	9:30 ~ 12:00		食品の保蔵と加工	帯広大谷短期大学
	13:00 ~ 16:00			
12/14(金)	9:30 ~ 12:00		自分の身体状況に合った献立の作成および栄養価計算・評価	帯広大谷短期大学
	13:00 ~ 16:00			
12/15(土)				
12/16(日)				
12/17(月)	9:30 ~ 12:00		糖尿病に関する演習・実習	帯広大谷短期大学
	13:00 ~ 16:00			
12/18(火)	9:30 ~ 12:00		公衆栄養学	帯広大谷短期大学
	13:00 ~ 16:00			
12/19(水)	9:30 ~ 12:00		栄養素欠乏症および改善料理試作	帯広大谷短期大学
	13:00 ~ 16:00			
12/20(木)	9:30 ~ 12:00		食品の衛生・安全管理	帯広大谷短期大学
	13:00 ~ 16:00			
12/21(金)	9:30 ~ 12:00		食品加工 II 保蔵と貯蔵	帯広大谷短期大学
	13:00 ~ 16:00			
12/22(土)				
12/23(日)				
12/24(月)				
12/25(火)	9:30 ~ 12:00		学生との交流「アフリカと日本の食文化」について	帯広大谷短期大学
	13:00 ~ 16:00			

日付	時刻	形態	研修内容	研修場所
12/26(水)	9:30 ~ 12:00		大谷プログラム振り返り/女性、栄養と保健システム	JICA帯広 S4
	13:30 ~ 16:00		コミュニティエンパワメントと参加型啓発活動	
12/27(木)	9:30 ~ 12:00		PCM手法、PPMモデルを活用したプロジェクト形成、運営管理	JICA帯広 S4
	13:30 ~ 16:00		ドラフトファイナルレポート討論会 I	
12/28(金)	9:30 ~ 12:00		ドラフトファイナルレポート討論会 I	JICA帯広 S4
	13:30 ~ 16:00			
12/29(土)				
12/30(日)				
12/31(月)				
1/1(火)				
1/2(水)				
1/3(木)				

日付	時刻	形態	研修内容	研修場所
1/4(金)	～			
	～			
1/5(土)				
1/6(日)				
1/7(月)	9:30 ～ 12:00		日本の栄養政策とその変遷/開発途上国における食事調査	JICA帯広 S4
	13:30 ～ 16:00			
1/8(火)	9:30 ～ 16:00		けんこう帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター
	～			
1/9(水)	9:30 ～ 16:00		けんこう帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター
	～			
1/10(木)	9:30 ～ 16:00		けんこう帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター
	～			
1/11(金)	9:30 ～ 16:00		けんこう帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター
	～			
1/12(土)				
1/13(日)				
1/14(月)	13:30 ～ 16:00		帯広大谷短期大学国際交流センター（学生との交流）	
1/15(火)	9:30 ～ 16:00		けんこう帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター
	～			
1/16(水)	9:30 ～ 12:00		ドラフトファイナルレポート討論会Ⅱ	JICA帯広 S4
	13:30 ～ 16:00		経験共有セミナー資料作成	
1/17(木)	～		けんこう帯広21の取組み	帯広市保健福祉センター
	～		帯広市プログラム振返り	
1/18(金)	9:30 ～ 12:00		ドラフトファイナルレポート討論会Ⅱ	JICA帯広 S4
	13:30 ～ 16:00		研修員による自国での母子保健、地域保健の優良事例の紹介	
1/19(土)	9:30 ～ 12:00		ドラフトファイナルレポート討論会Ⅱ	JICA帯広 S4
	13:30 ～ 16:00			
1/20(日)	～			
1/21(月)			振替休日	
1/22(火)	9:30 ～ 16:00		病院栄養士の業務について/最新医療機器の説明	北斗病院
	～			

日付	時刻	形態	研修内容	研修場所
1/23(水)	9:30 ~ 12:00		【仮】食品衛生と生活衛生	JICA帯広 S4
	13:30 ~ 16:00			
1/24(木)	9:30 ~ 12:00		十勝の農村の食生活改善運動の歴史と流れ	JICA帯広 S4
	13:30 ~ 16:00		生活習慣病の予防	
1/25(金)	~		ドラフトファイナルレポート発表会準備	JICA帯広 S4
	~			
1/26(土)				
1/27(日)				
1/28(月)	11:00 ~ 12:00		評価会	JICA帯広 S4
	13:30 ~ 16:00		ドラフトファイナルレポート発表会	オリエンテーションルーム
	16:00 ~ 17:30		閉講式・閉講パーティー	S4/会議室
1/29(火)			帰国	

## 年度別受入実績表

### 1. 応募／選考（受入）人数

	平成23年度	平成24年度	累計
応募数	13名	13名	26名
受入数	9名	9名	18名

### 2. 研修員出身国

国名	平成23年度	平成24年度	累計
ベナン	○	○	2名
エチオピア	○	○○	3名
ガーナ	○○	○	3名
ケニア	○○	○○	4名
ザンビア	○○	○○	4名
ジンバブエ	○	○	2名
合計	6カ国 9名	6カ国 9名	6カ国 18名